

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。朝からいろんなじめについてとか、福祉についてたくさん質問が出ておりました、私の言うとも大分重複しますので、避けながら行きたいと思います。

きょう私は、福祉の充実と教育について、それから、健康づくりについての3つの点について質問をいたしたいと思います。

その前に、先ほど来より、市長より支援についての話がいっぱい出ておりましたけれども、私たち北方町地域婦人会では18、19、20日と陸前高田のほうに行っていました。もう半年ぐらい前から計画をしておりましたけれども、3つ目的があったんです。それで、聞いていただきたいと思いますが、1つは、90歳になるおばあちゃんが、ちょっとごめんなさい、こんな手縫いで（手提げを示す）手提げを半年かかって50個つくっていただきました。そして、自分は行き切らんし、どうかして届けてくんしゃいと、行くて聞いたけん、つくったよということです。これを持っていくこと、それから2つ目は、これも高齢の方ですけども、子どもたちのベストを50着編んでいただきました。これも自分は行き切らんよ。何かせんばいかんと思うけんが、あなたたちが行くて聞いたけん、持って行ってくんしゃい。そして、いろんなおミカンとか、丸芳露とかいろんなものをいただいて、持って行ってくんしゃいということです。それで、私たちはそれを持っていくことにしました。

そして、もう1つ、ぎりぎりになってから私たちに大きな一つの仕事ことができました。それは、私たちの北方の町の方が陸前高田に嫁いで行かれて、それで看護師なんですけど、病院で流されて亡くなられたんです。そこもまたお母さんはもう88歳で自分は行き切らん、参って来てくんしゃい。私たちは本当に大きな仕事を、本当みんなで行こうねということでお線香を持ったり、般若心経を印刷してくださった方もおられました。みんな分持ってこられました。それを持って行ってまいりました。

それともう1つ、北方からは先ほど陸前高田の市のほうに出向していらっしゃる上田さんと古賀さんがいらっしゃいましたが、古賀龍一郎君は北方です。お母さんも息子の職場もちょっと見てみたかと、どがんとろやろうかと、一緒に行こう、行かせてくんしゃいというので、これまた一緒に行きました。いっぱい学ぶべきこと、見るべきこと、せんばならんこといっぱい抱えながら私たち31名は行ってまいりました。本当に行って、先ほどから支援についてお話がっておりますけど、まだまだということを目の当たりにしてまいりました。

これで簡単にですけれども、全部読む時間はありませんので、幾つかをどうぞ見てください。皆さんの感想の代理です。読ませていただきます。「震災などと関係なく、日々、平々凡々に暮らしている私たちが大変な目に遭い、いまだ復興のさなかにいる方々を物見遊山的に見に行くようで気が引ける気持ちで行こうかどうかと考えた末の参加でしたが、行ってみて、時間がたって復興中とはいえ、震災のまだ生々しさが残る現地の惨状を直接目にして自然の恐ろしさを改めて感じました。想像した以上の惨状でした。浜ノ町商店街に寄っていた

だいたときには、何と声をおかけしていいかわからず、ただ今から寒くなるので、体に気をつけてくださいとしか言えませんでした。遠くから一日でも早い復興を願うばかりです。」
ずっと飛ばしますけれども、「今さらながら原発反対の声をもっともっと広げなければと痛感します。百聞は一見にしかず、本当に現地に立ってわかることの多い旅でした。これからも見てきたことを伝えていきたいと思います。」「いざ現地を目にした途端、テレビで見た惨状と重なり、言い知れぬ恐怖感を覚えました。高田市の婦人会の方との交流会では、体験談を話されるときもいまだにあの恐ろしい情景がよみがえりますとのこと、涙せずには聞けませんでした。体験談を通していかに組織力が重要であることが教えていただきました。」

「地震や津波の高さなど物すごさを感じ、バスで移動しているときに、あの建物の中に天国のママへという書き込みがありましたという説明を聞いてから、涙がとめどもなく流れてきました。しばらく窓のほうばかり見ていました。その子どもたちはこれからどうなるのだろうと考え、本当につらくなりました。復興なんてまだまだずっと先のことなんだろうなと思い、これからもずっと東北のことを思って暮らしていかなければならないと思いました。」
まだたくさんありますけど、一部です。こういうふうな感想を抱きながら私たちは帰ってまいりました。そしてまた、これからも、先ほど来、話が出ていますように、末永く私たちのできることの支援をやっていこうというふうに話をしております。ということでございました。

それで、質問に入りますが、そういう被災地から帰ってからのことです。帰りながらもですけれども、あんなときにどうして私たちは逃げたらいいんだろうね、どこに行くんだろうね、いろんな話が出ました。どこに行ってもあの話の聞いただけでは逃れ切らんよね、どがんすんねという話。ちょうどそういう話をしているうちに、帰ってからですけれども、質問の1番ですけれども、11月26日の新聞に「福祉避難所 9市町ゼロ」、武雄市ももちろんゼロ。あらっとみんなびっくりしました。一番弱者である方たちが避難におくれたということもいっぱいニュースでも聞いておりましたけど、この武雄市でもないのかなと思ってびっくりしましたが、その福祉避難所について質問をいたしますが、福祉避難所というのはどういう施設、どういうふうなのが整ったところを言うものかどうか。

また、私たちが避難所と決めてあるとは大抵公民館ですが、そういうところとか、どういふところが違うのかなというのをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

災害が起きたときにつきましては、避難しなければならない人たちを一時的に学校の体育館とか公民館などに設置した避難所に受け入れまして保護しなければならないというふうになっているところがございますけれども、そういう避難者の中でも高齢者の方とか、障

がいをお持ちの方、それから、病弱的な方、こういう方につきましては、特別に配慮が必要というふうなところで、そういう方たちにつきましては、ある程度そういう方たちに対して配慮された建物、そういうところを福祉避難所として位置づけるというふうになっております。

想定される特別な配慮といたしましては、相談等含めましていろんな介助に当たる方を配置できる。それから、高齢者とか障がい者の方に配慮したポータブルトイレ等の整備がなされている。そのほか、日常生活を行う上で、例えばバリアフリーとか、そういうふうな形になっている、そういうふうな形で整備されたところについて福祉避難所として位置づけられているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

では、今聞いているところによりますと、やっぱり公民館と何とかとはまた全く違うんですね、長期にわたる避難所ということになりましたけれども。ひとつこれはお伺いしたいんですけれども、今まで我が武雄市においてはいろんな避難訓練がされております。水害訓練はもとよりのこと、放射能に対しても他町との避難訓練も実施されております。よそに先駆けていろんな訓練がされておりますけれども、その訓練のときには、今言うような福祉避難所を要する者、要介護支援者の方たちに対しての訓練の計画というのはなかったのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

福祉避難所ということで指定はしておりませんが、指定避難所の中です、先ほど言いましたトイレとか、それから、ある程度バリアフリーになってスロープが設置されているとか、そういうところの小学校とか中学校、市内にはたくさんあるわけですが、いろんな訓練の中では、例えば施設での訓練とかにつきましては、障がいをお持ちの方の避難訓練等は行っておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

それでは本当の避難訓練にはならないというのは大げさかもわかりませんが、私は、こんなにたくさん避難訓練がいつもされているので、ああ、よかったなと思っておりました。その中でやはりこういうことはもう解決しているんじゃないかなと思っておったものですから、この新聞を見てびっくりしたところでございます。

それでは今からのことですが、市長のブログにもありましたように、早急にということを書いてありましたが、今後どのような計画をしていらっしゃるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

けさ武雄市社会福祉法人、社協ですよね、社会福祉協議会と協定書を結びました。それで福祉避難所の指定として日輪荘、さざんか荘、長寿園を対象施設として指定をしました。運営及び経費については、基本的に3法人に対応してもらいますが、市も支援を行いたいというふうに思っておりますし、経費については市が負担をいたします。

いずれにしても、ちょっとこれあれなんです。これは僕もしまったと思ったんですね。実際、山田部長を初めとして事務方では、これ調整していたんですよ。ですが、ああいうふうにね、別に佐賀新聞を否定するわけじゃないですけども、ばたんって書かれて、非常にこれはある意味いいことだと、ショック療法ですね。いいことだと思いますし、それに我々はやっぱりちゃんと対応しなきゃいけないということではあるんですけど、ただ、見出しがだめね、佐賀新聞は。全然やっていないというふうに書かれていたじゃないですか。だけど、僕らちゃんとやろうとしていたんですよ。だけど、ある事件でギロチンみたいに切ってしまうということは、これは報道機関としてはいかなものかとやっぱり思いますよ。あれでぱっとやっぱり不安が広がりましたもんね。ですから、やっぱりそこは報道機関にもやっぱり考えてほしいと思いますよ。

ですが、それはそれとして我々が教訓で得たのは、ちゃんと、もうスピードは最大の付加価値だってやっぱり思いました。そうすることによって、きちんと評価をされるという意味では、我々のほうにもやっぱり落ち度があったということはもう認めざるを得ませんし、まず隗より始めよ、スピードは最大の付加価値、上野議員さんの質問の前に協定を済ませて、それでできる限り早い段階で日輪荘、さざんか荘、長寿園を福祉避難所として開設をするということ、そして、また幾つかちょっと声をかけておりますので、それも整え次第ちゃんとしていきたいというふうに思っております。

ただ、これ福祉避難所じゃなくても、やっぱりこれが遠かったら話にならないわけですよ。ですので、指定福祉法人でしたっけ、であるとか、あと公民館もやっぱりこれもきちんと意識をして、障がいをお持ちの方々とか御高齢者の皆さんとかをちゃんと温かく迎えるような施設にするようにね、これは避難所との指定とは別に、もう一度きちんと検証をするということをしてまいりたいと、このように思っております。そして、これが一点めどがついた時点で、ちゃんと地図にして、また、市報であるとか、社協の広報紙であるとか、そういったところでちゃんとお知らせをするということが我々の次の責任だろうというように思っ

ております。佐賀新聞には感謝をしております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございます。今、市長がおっしゃったように、私も福祉避難所と別に、それぞれの小さな公民館の避難所はどうなっているかなということもお聞きしたかったんです。やはり一番近いところに避難をしたいと思いますので。それから、ずっと以前に私もこの一般質問で言ったかなと思うんでね、合併したすぐに。年配の方が避難所には行かんよと、公民館にはと、何で行かんねと聞いたら、洋式便所がなかけん、行かんて。私は行き切らんと。それがずっと頭に残っていたんです。ですから、今、市長がおっしゃるように、そういう小さな我々の身近にあるところも避難所として確立をお願いしたいと思います。本当にスピーディーな結論ありがとうございます。広報を楽しみしております。やっぱり周りから不安の声、うわっと来たんですよ。この新聞を見てですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

では、せっかくの機会なんで上野議員さんにお伺いしたいんですけどね。

避難所の指定とかというのはちょっと別にしても、やっぱり障がいをお持ちの方とか御高齢者の方々がやっぱり一番必要とされるのはお手洗いなんではないでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

やっぱりそうです。一番言われるのはすぐそこです。それから、我々が年配の方、お年寄りの方、ちょっと要援護者の方を連れていくときもやっぱりそれをすぐ言われます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりました。新年度予算で、まださっきつながる部長に確認したら、公民館でも入っていないところがありますので、町の公民館として——町の公民館だよ。ね。（発言する者あり）入っていないところがありますので、それは新年度予算で洋式トイレ、少なくとも1つはつけるようにしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

きょう聞かれている方もきっと安心されたことと思います。いつ何があるかわからないときですから、早くスピーディーに市長の考えでお願いしたいと思います。

じゃ、次に移ります。

安心・安全な暮らしをするために、我々はいろんな地域のニーズを求めながらいろんな質問をしておりますが、次に、今の避難訓練ではありませんけど、次は施設の避難訓練についてお尋ねをしたいと思います。

私は、せんだって北方町にある施設の夜間避難訓練のほうに参加させていただきました。市のほうからも来ていただいておりました。本当にそこは70人という方が入所していらっしゃるところで、大変広いところですが、夜間、火災訓練ということでしたが、大きなサイレンが鳴り、地域の方々も加勢して、それから、地域の消防団の方も参加されての避難訓練でしたが、私も初めて参加して本当にびっくりしました。寒い夜でした。真っ暗いときに、少し認知症もかかっている、本当に高齢者で不自由な方たちを全部じゃないですけど、ある一部の方たちを車椅子で出して、そして避難をさせていらっしゃる様子でした。本当そこの施設は毎年されているようで、職員の方たちも手なれた様子でされておられましたが、来られた消防団の方たちは、これどがんすぎよかとかな、これどけあいかなということで、初めてこられた方がいらしたんじゃないかなと思います。それで、うわっ大変だなと。でも、本当にここにそういう火災とか災害があった場合にはどうするのか。やっぱり東日本のときにも訓練が第一だということを何度も何度もお聞きしました。それで、ほかの施設はどういうふうになっているのか、お聞きしたいと思って。そこの施設は自主的にやっていますということでしたけれども、どんな状態なんでしょうか、現状は。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

各施設の避難訓練等を行います部分でございますけれども、消防法等の規定によりまして、各施設につきましては防火管理者を設置するようになっております。また、その防火管理者が防火にかかわる消防計画を立てるようになっておりまして、全ての施設でそういうふうな取り組みをするような形になっているところでございます。各施設に問い合わせをしましたところ、少なくとも年1回はそういう避難訓練をしているというところで、先ほど言われました施設につきましては、そのほかにもあるわけですが、そういう施設につきましては2回以上行われているということで、ほかにも夜間訓練を行われている施設もあるというふうにお聞きしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

はっきりした、ここからこうしなさいというあれはないかとお聞きしましたけれども、でも、1回しているところ、2回しているところ、年に1回するかせんかというようなところでは困るんじゃないかなと思います。今グループホームというのはたくさんあっちこっちでできております。設立されております。そこに消防法というのもあるとは思いますが、実際にされているかどうかをですね、本当、強制じゃないですけども、やっぱり、その弱者の人たちを守るためには、そこを何とか市としてリードしていくわけにいかないんですかね。何とかそのところではできないものなんでしょうか。消防法とか、それに載っているけれども、していると思いますじゃくてですね、1回はしてほしいとかですよ、そういう強い要望はできないもんですか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

少し説明不足があったようですので、改めて説明させていただきますけれども、消防法によりまして30人以上の入所者とか、収容する施設、それにつきましては、年2回以上、それ以下の施設でも年1回は義務づけられておりますので、必ずしなければいけないというふうになっているところでございます。

先ほど言われました宅老所関係についてもそういう計画をつくってもらっておりまして、実施はされているというところで、私が聞いているというような部分で発言した分は施設に問い合わせられていますので、全部の施設でされているということをお願いをしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

はい、わかりました。では安心いたしました。本当に弱者の方というのは、本当に自分は参加してみても思ったんですよ。こがん暗かとか私ほどがんで逃ぐ、自分でも思ったのに、何もわからない方がどういうふうにしていくのかというのは、これは訓練以外にはないのかなと思って見ておりましたので、そのほうも市のほうとしても時々調べていただきたいなと思っております。

じゃ、次の質問に移ります。

次は、図書館についてです。

図書館については、もう先日来よりたくさんの方から質問が出ておりますが、この図書館、新しい図書館、私は本当にいつできるかなと楽しみにしながら待っております。今のところは貸し出しもできておりませんから、今しばらくの辛抱で新しい図書館を目の前に私たちは楽しみにしているところでございます。先日来、市長が、誰でもが楽しめる図書館にという

ことをおっしゃいました。それで、私は、ひとつこれはお尋ねですけれども、今までの図書館で大人も子どもも体の不自由な方たちも行ける、楽しめる図書館だったと思いますが、体の不自由な方たちへの工夫というか、援助努力というのはどういうふうにはなされていたかなど、わかるところだけで結構ですので、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現在の図書館ですけれども、休館中であるわけですから、子どもたち、あるいは障がいをお持ちの方にとっては利用しやすい図書館だったのかということで申し上げますと、バリアフリーという形になっているというふうに思います。また、2階にも読書室等々ございますけれども、これはエレベーターも設置をしておりますし、エレベーターで行けるということになっております。トイレにつきましても、皆さんがですね、障がいをお持ちの方も使えるようなトイレということ、あるいはまた子どもたちにとっても小さな便器も用意しておりますし、そのようなことで使いやすい施設になっていたというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

建物全体、図書館全体としてはいろんな工夫をされていると思います。でも、図書館には本当に谷口議員からも出ておりましたように、歴史を大事にする人、文化を大事にする人、そして、本をいっぱい読みたい人、たくさんいろんな方が大人から子どもまで集まります。その中にも不自由の方がいらっしゃると思うんです。その方たちもやっぱり私たち同じ武雄市民です。平等に図書館の楽しみを得なければならないと思います。それで、ひとつ皆様に知ってほしいことがあります。きょうは紹介したいと思います。

図書館に目の見えない方は何で来ていらっしゃると思いますか。耳の聞こえない方はどうして図書を聞いていらっしゃると思いますか。私たち健常者はそんなことは何とも思わずに図書館に行き、楽しい本を読み、みんなで楽しんでまいりました。ここで本当に皆さんに知ってほしいこと、そして、今度新しい図書館になったとき、ここを充実させて、みんなが平等に楽しめる楽しい図書館にしてもらいたくて、以下のことを皆さんに知ってもらいたいと思います。

ちょっと読ませてください。「広報武雄を録音テープで聞いてみませんか。私たちは図書館のボランティア、エポカル武雄フレンズの音訳グループです。毎月発行されている武雄の広報紙を音訳してテープやCDをつくり、視覚障がい者の方々に無料で郵送しています。一度聞いてみられませんか。これまでに新・ふるさとの歴史散歩武雄や武雄に関する本を音訳して御希望の方にお送りしています。武雄市や社会福祉協議会や公民館からのお知らせ、ま

たは電気製品など商品の取り扱い説明書などの印刷物を音訳するサービスも行っています。点訳サービスもあります。新聞のコラムなど御希望のものを点訳し、お届けするサービスも行っています。また、音訳、対面朗読、点訳など御希望の方はお気軽に御連絡ください。」というふうなチラシをボランティアでされている方たちがいらっしゃいます。そして、この音訳したテープをちょっと見てください。ちゃんとテープにこのように（カセットテープを示す）録音して、御希望者のあられる方には、これCDもです、これに入れてお貸しする。返される方はこれをそのままポストの中に入れて返ってくるというふうになっているようです。これもみんな手づくりでされています。テープもみんなボランティアの方が全部出前でいろんなことをされる。それが私も本当武雄のことよく知らないでございましたけれども、平成14年から始められているんですね。何人かのボランティアの方でですね。そして、点訳した本を、私も気づかんでおりましたけど、皆さん気づかれましたか。もとのエポカルに行かれたときに、入り口のほうに翻訳した本を立てかけてあったのをですね。それも自費でちゃんと点訳されて本をしてある。そんなのも本当にうかつでした、私たちもですね。だから、今度新しい図書館になった場合には、ぜひこのようなこともしっかりと受け継いでほしいということと、それから、これをエポカル武雄フレンズの方たちは、皆さんに知ってほしい、この知ってほしい広報の手助けを市役所のほうでやってくれないだろうかという気持ちを持っていらっしゃいます。それをぜひやるべきだと思いますが。

それから、もう1つごめんなさい。こんなにですね。それから、市長の「首長パンチ」なんかもちゃんとCDに翻訳してあります。いろんなことしてあります。それから、市報を毎月音訳されております。きょうはそれをテープで聞いていただきたいと思ったんですけど、ここは禁止でしたので、これをですね、目をつぶってください。それで11月号の市報です。表紙には誰々さんが白い表紙の上に写真が、児童用の椅子に座って、もう本当にわかるようにずっと詳しくですね、全部これ音訳されています。こういうのを毎月されているんですね。だから、こんなもん大事にしながらですね、本当にみんなの図書館になっていけばと思います。どういふふうなお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当、エポカル武雄フレンズの皆さんたちには感謝をしています。私も何人か知り合いがいらっしゃいますけれども、本当に利他の精神で頑張っておられます。こういうお気持ちを無にすることなくね、引き続き我々としては応援をしていくということを約束します。先ほど議員御指摘の広報については、ちょっとこれは時期を一応考えさせていただいて、市報でこの特集をさせていただきます。その時期は我々のほうにお任せをいただきたい。

もう1個ですね、これ大事なのは場所なんですよ。後でちょっと御質問あろうかなと思っ

たんですけど、もう関連します。これは2階の（パネルを示す）これそのものは学習室です。こういうふうに学習室を変えます。変えて、そしてしかもですね、ここにガラス戸をつけて、今はフリーになっていますので、ガラス戸をつけまして、もうここが完全に無音の状態にします。これちょっとパース絵をつくっていませんけど、この奥の方に今余り使わない会議室がありますので、これをエポカル武雄フレンズの皆さん、ボランティアグループの皆さんに開放したいと思っています。そうすることによって、ここでいろんな議論ができるし、エポカル武雄フレンズの皆さんから会議室が欲しいという御要請もいただいておりますので、その声に真摯に応えたいと思っています。あわせてまた活動する場はまた別途、古賀部長ね、設けておりますので、これはもし御質問を賜ればその際にお答えをしたいと思っております。

です。場所も広げる、そして、なおかつその支援については今までどおり、今まで以上にやっていきたいというふうに思っております。いずれかのタイミングでエポカルフレンズの皆さんと私と一回意見交換会をぜひしたいなと思っていますので、これも時期を見てですね、武雄フレンズの皆さんたちもお忙しいと思いますので、それもぜひ、図書館が発足前にそういう交流会をしていきたいというふうにも思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。きっとすばらしい音訳ボランティアですね、図書館、エポカルフレンズの方たちも喜んで、ますますたくさんの本を翻訳していただくことと思います。

今、市長さっきおっしゃったように、場所を聞こうと思っていましたんですけども、録音の場所とか一応めどはありましたら今お聞かせ願えますか。作業の場所。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

すみません。ちょっとパース絵を用意していないんですけども、先ほど市長から話があったとおり会議室については2階に御用意をするということにいたしております。

それから、作業の場合につきましても、1階に用意をするということですので、またCCの皆さん、あるいは現在の市の担当者とエポカルフレンズの皆さんと話し合いの場を持って、そこら辺詰めていきたいというふうに考えております。（「1階というのはどこね、想定しておるところは」と呼ぶ者あり）

1階の、入りまして右のほうに行きます。今奥のほうに小さな部屋があるわけですが、あそこを御用意したいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

また、市長おっしゃるように、フレンズの方たちといろいろな話し合いされながら、本当に有利に進めていきたいなと思っております。ありがとうございました。

次に、1つこれ質問ですけれども、平成22年度まではホームページのところで聞かれたとおっしゃっていますが、その後はどうなっているのかな。市報の音訳を聞かれたと。（発言する者あり）聞くことができましたと。今はどうなっていますかということですが。（発言する者あり）いや、いいです。また後で。いいです。ではまた話し合いのときにでもお願いしたいと思います。

それから、ひとつ私が図書館についてCCCの方と話し合っただけで本当にいいなと思ったのは、CCCの方、東京にいろいろな皆さんと行ったときに、ボランティアというのはあっちでは考えられないと。こっちのほうからボランティアはこうこうですよと言ったら、もうびっくりしておられたんです。そして、このボランティアを自分たちは大事にしていきたいということを私聞いて、本当にうれしく思ったんです。だから、本当にきっとすばらしい図書館になると思います。

○議長（杉原豊喜君）

ここで、議事の都合上、1時20分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

先ほどボランティアルームの位置に関しまして口で御説明をいたしましたので、図で御説明をさせていただきたいというふうに思いますが、（モニター使用）図書館・歴史資料館、入り口から入りまして右側のほうになりまして、奥のほうですね、赤い部分になりますので。そこをボランティアルームとして御用意させていただくということになります。なお、さきに申し上げましたが、2階の会議室につきましては、この赤の位置になります。

次に、ホームページからの音声で聞くことができなくなったんじゃないかという御指摘でございまして、調査いたしましたところ、2010年の11月まではホームページから聞くことができるという状態だったわけですけれども、手違いございまして、その後アップされておられませんので、早速改善をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

図書館に関連してなんですけれども、先ほど吉川議員のときに、蘭学館の今後の扱いについて申し述べましたけれども、我々とすれば、これについては蘭学館の位置づけが今度変わりますので、条例改正をしたいと思います。条例改正案を策定の上、臨時議会を招集させていただきます。その目途については議長とよく相談しますけれども、1月を目途に臨時議会を招集させていただきます。そこに関連の条例案、そして関連の予算案をそこで一括して議題に上げていただいて、そこで広範の議論を賜っていききたいというふうに思っております。その予算というのも、今の蘭学館ではなくて、企画展示室に行った場合に、例えば、モニターの問題とかさまざま、これは備品購入の必要がありますので、そういったものについての予算等を考えております。条例内容につきましても図書館の設置条例ほかになると思うんですが、ひょっとすると手数料条例も改正する必要があるかもしれませんけれども、いずれにしても位置づけが変わりますので、それはきちんと市民の皆さんたちにわかるようにしていきたいというふうに思っております。ですので、またそのときに広範な御議論を賜ればありがたいと思います。

ただ、先ほど申し上げたとおり、今よりも悪くなるということは絶対にありません。今は最低最悪です。ですので、吉川議員がありましたように、ゼロなんですよ、大体ずっと。それが今よりも悪くなるということはありませんので、そこは我々が蘭学をないがしろにするとか軽視するじゃなくて、より大切にするためにきちんと展示をするということですので、ぜひ足を引っ張らないような議論をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

よくわかりました。また図書館についてはその都度論議いたしたいと思います。

では、次の質問に入りたいと思います。

教育の問題ですけれども、先ほど来いじめのことについてはいろいろ論議、先議されておりますし、市長からも私の考えているとおりの答えは言っていましたので、いじめについては、質問は途中ですけれども、1つだけ現場にお聞きしたいと思います。

再度ですね、2倍になったというこの報道を見て、やっぱりうちの子ではないだろうか、うちはどうだろうかという保護者の方たちの不安は大分募ってまいりました。うちはこういうふうにして9月の議会でもいじめについてはいろんな質問をしまして、学校としてもそれこそ工夫されたアンケートでいろんなことをされてですね、子どもたちを未然に防ぐために活動しておられますよということでは言いましたけれども、それ以後、また改めて再度こういう倍、うちのことじゃないにしてもですね、ということに関して教育現場におきましては再度ということではどのような取り組みとか、どのようなことをされたのか、お聞きしたいと

思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いじめにつきましては、2点申し上げたいと思います。

まず1つは、やはり起きたときの迅速な対応というのは、保護者の方、子どもたちにとって非常に心配の種でありますので、その迅速な対応、そして、やっぱり担任が一人で抱え込むということで負担も出ますので、そういう組織的な情報交換とか、共通理解とか、それが有効にできると。それから、もちろん保護者の方とやっぱり日常からいろんなことが担任なり学校に言っていただけるような体制をつくっていくと。もちろん甚大な内容につきましては、例えば暴力行為とか含みますと、やはり警察の方と連絡とって対応することもあるわけですが、まずは起こったときへの体制が整っているかということが1つであります。

それから、そうなる前のですよね、事前に日常的に何ができるかということが非常に大事でありますので、今まで割とこの予防的なカリキュラムが余りできていなかったんじゃないかという反省で、アンケートはもちろんですけれども、個人面談とか、個人のノートとか、日記的なつながりの中で把握するとか、それから、いつか申し上げましたように、昨年、一昨年と心といのちの健康を育む武雄プランという事業を行いましたけれども、その中でも命のかかわるような取り組みを授業としても計画しておりますので、そういうことを計画して、事前に何ができるかというところも大事にしていきたいと。これは各学校で共通した意識だろうというふうに思います。

それから、具体的にはですね、子どもたちが実際にいじめはよくないことだということで、考え、話し合い、何ができるかという、ここのところも非常に大事なことかというふうに思います。御存じのとおり、武雄中ではかつていじめ追放宣言等されてあるわけですが、自分たちでできることもいろいろあるはずだということで、さまざまに取り組んでおられますし、また、そういういじめ等が出にくい、楽しい学校づくりというのを、いろんな学校あるんですけども、例えば北中学校の夢プロジェクトなんかこう見て、子どもたちが生き生き伸び伸び交流してやっていますと、ああ、起こりにくいだろうというのは当然あるわけありますので、そういう子どもたちの活動とかを大事にして、いじめいじめと言うとちょっと暗くもなるわけわけありますので、そういう学校づくりの中でですね、学級づくり、学年づくりの中で子どもたちが取り組んでいくと、そういう体制づくりが最終的には一番大事なことかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

学校現場においても、それぞれに本当にいろいろ工夫をされていらっしゃることはよくわかります。だからどうぞ、本当に現場の先生方はいつも毎回毎回出ますけれども、超多忙のときですけれども、子どもたちと向き合って心を開く現場にしてほしいなと思っております。

では、次に移りますが、そういういじめがたくさん出ている原因、全国のことでしょうけれども、そのいじめをなくすためには一体どうしたらいいのかなという話もあちこちたくさん出ておりますし、ここでもたくさん出ております。ちょっと調べてみましたら、何か平成18年ですかね、教育基本法に新たにですよ、学校、家庭及び地域住民等の相互の連帯教育ということで、新たに。それで、何でもかなとグラフを見てみますと、やっぱり18年度からいじめのグラフというのがぐっと上がっているんですよ。そのときに、やっぱり国も改めてこういうふうな制度をとられたと。

そこで、私の質問ですけれども、やっぱり学校だけではどうしようもない。きょうの先ほどの市長の話でもありましたように、やっぱりみんなできていかんばいかんということで、ここで連携というのが出てくるんじゃないかなと思うんです。先日ですね、北方では小学校、中学校の町民育成のときの少年の主張大会がありました。小学校14名、中学校14名が自分の主張をたくさん述べて、本当にわあすごいな、うちの子を見て立派だなと思って聞かせていただきましたが、その中で私は大半の子どもたちが地域に出かけて行って、地域の人との間からいろんなことを学び、それを将来につなげていくというような意見がいっぱいあったんです。それで、ああ、やっぱり地域に出ていく連携は、ああ、こういうところが大事なんだなと思いました。例えば、私たちが自分の、もう孫でも何でもいいですけれども、挨拶はせんばいかんよと、誰とも挨拶しなさいよと、それで、はんはんと言って余りしません。それでたまたま体験学習で地域に出たときに、そこでしっかり挨拶ばせんばと言われてみて、挨拶は大変だなと思いましたと、あら、ずっと家でも言いよんさったとけねと思ったんですけどね。そういうふうに、地域で本当に大変いろんなことを学んでいる、その連携というのが大事なので、ここに連携というのが出てきたのかなと思っております。その地域とか、小学校、中学校、そしてまた行政との連携というのをどういうふうにしていらっしゃるのか、今現在されているものなのか、具体的に知らせてほしいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありました北方の子どもたちの主張大会、私も後半聞かせていただきまして、本当に職場体験に行った経験などというのが、これだけ子どもたちの心に響いているのかということも改めて強く感じました。

今おっしゃいましたように、いじめ対応についても、多分、市長さんが学校を回っていただいたのが18年度やなかったかと思うんですが、確かにそういう形でいろんな対応する中で

子どもたちも育っているというところは改めて感じるわけです。

幾つか具体的にということでもありますので、お話ししたいと思いますが、（モニター使用）これは武雄中学校の「武中のちから」という事業であります。これは家庭、学校、地域連携支援体制づくり事業ということで、これは講演会があったときかと思いますが、実行委員会を立ち上げていただいて、応援団であったり、あるいは学習支援であったり、いろんな形で地域全体で子どもを育てる事業を行ってもらっております。また、これは同じ武雄中学校のほうの子どもたちへの読み聞かせですね、これはやはり私どもも最初中学生に読み聞かせというのはどうなのかというのはちょっと半信半疑の点もあったんですけども、実際生徒たちは非常に集中して聞いてくれているということを知っております。それから、これが北方中学校での第1回の学校運営協議会であります。これはコミュニティースクールということで運営協議会制度を立ち上げまして、地域と一体となって地域とともにある学校づくり、そのためにどんなことができるかという協議の場でございます。その中で中学校のほうでも以前に比べ非常に生徒たちが地域に出かけて、そしていろんな活動をして、ある地域の方も非常に感謝されているというようなことまで聞こえております。

先ほどの主張の大会でも私自身も地域のことをこれだけたくさん言ってくれたのは初めてじゃないかなというようなことを聞きまして、その同じ、先ほどの挨拶で言いますと、家族が言っても聞かなくても、ほかの人から言われたら本当に素直に聞いてというような状況がたくさん見られているわけでございます。そういうことを聞いております。これは北方中学校の同じ学校運営協議会でございます。これ第2回目のですかね。これが先ほど言いました吹奏楽部では、介護施設の慰問演奏等をかなりの回数を多くしてくれているようであります。自分たちがためになったということを非常に強く言ってくれました。これは保育園も慰問してくれております。これは夏休みに公民館です、北方小学校での、昨年度からこういう形で地域で夏休みの午前中、日数とかそれぞれ違いもあるようでありますが、非常に強いかわりを持っていただいているということが大変感謝しているところであります。こういう状況でございます。これは北中学校、先ほど言いました夢プロジェクトの中の地域の人も一緒になった一体型ミュージカルというのを見せていただきまして、本当に創意工夫を生かして、そういういろんなつながりを持っていただいているということでございます。川登中学校では平和に関しての講話をこのような形でしていただいております。平和については非常に実感が湧かないわけではありますが、こうして体験をもとに話していただくということで非常に感銘深く聞いているようであります。山内中学校では、毎年このように敬老会に必ずどの部落にも中学生が出向いて言葉を言い、プレゼントを贈りというようなことを見せていただいております。

具体的な例として申し上げましたけれども、こういう中で中学校の例をきょう申し上げましたけれども、こういう中で地域で生まれ、そして自分の存在感を強く持っているという非

常にありがたく思っております、今後ともこの方向で進めていくように学校のほうとも話をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にたくさんの方々のことを、たくさんの方々と一緒に実践されていることがよくわかりました。

すみません、ここには地域、学校、それから家庭との連携がありますけれども、行政とのつながりというのはどういうところを考えていけばいいのでしょうか。私は行政とのつながりというのも絶対大事だと思いますし、どういうふうにそこを生かしていけばいいのか一言。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

この場合の行政とのつながりというと、生徒のですか。生徒の……

〔11番「いえ、いえ。生徒じゃなくて、その連携という、行事の中で」〕

あ、そうですね、はい。行政との連携としましては、私どもが各学校の年間の計画を見ましたときに、やはり従来よりも連携する担当の職員をぜひ配置してもらおう。これは小学校、あるいは地域の方、いろんな団体の方と連携していただく。そういう担当を決めたりします。

それから、今の中では各教育委員会以外にも本当に深くかかわっていただいている場合が多々あるわけでありまして、最近特にふえているわけでございます。それは直接的には福祉的な面とか、あるいは地域の公民館でありますとか、あるいは先ほど余り多くないほうがいいんですが、警察の方にお世話になることもあるわけでありまして、したがって、そういう外との連携、行政との関係につきましても、極力校長を中心にして担当を決めたり、あるいは組織、あるいは横の中学校との関係の中で連携を深めていくというようなことで進めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

行政といえばすぐ金銭的にもいろんなことが絡んでくるんじゃないかと思いますが、どうぞしっかりやっていただきたいと思っております。

こういうふうに学校、家庭、教育、地域、行政が連携して、そして地域でどこでも子どもたちの小さなSOSを見逃さずに私たちは未然に防いでいきたいなと思っております。そして住みよい武雄市になっていけばいいなと思っております。

では最後に、健康づくりについて質問いたします。

せんだって11月17日物産まつりの日でしたけれども、朝から小雨が降っておりましたし、とっても寒かったし、こんな寒い日にウォーキングってあるのかなと思っておりましたが、武雄市婦人会ではですね、ハートピアの前の池のほとりのところで湯茶接待の仕事があったんです。こがん雨の日に来んさるもんかねと言いながらで、私たちも寒さに震えながらそこでレモンお茶を用意したり、あめ湯を用意したりしておりましたけれども、何と来られるんですね。雨は降っていたので、雨がっぱを着て長靴を履いて、着がえをリュックに背負って、そして来られる。それも親子連れ。多分御夫婦かなと。それからひとりで来られる方は大変多かったです。何でこがん雨の日に寒かときに来んさろうかと私は思ったんですけれども、来られた方に、できる限りお話をしたんですけれども、みんな近くの方じゃなくて、佐賀とか久留米とかですね、いろいろなところからいらしている。そして、それも面々に、団体で来られるわけじゃなくて、ぽつんぽつんとですね。その日は最後までおりませんでしたけれども、どうでしたかと、最後会長さんに聞いたら、120人ぐらい来んかったよと。私びっくりしたんです。どこがよかとかなの言ったら失礼ですけども、私やったらこんな寒いとき行かんのにと考えたんですけど、本当にみんなにここに来てですね、きょうはここに行って、次はあそこに行きますよと。そしてもう1ついいことは、前の日に武雄に泊まって、今日は歩いていますと。誰かさんは、きょうは歩きましたので、今夜泊まって帰りますと。あらっ、私は思いました。そして本当にこれこそ真の健康づくりかな、そして、余りお金もかからないし、いいところを見ていただいでできる、本当にすばらしい健康づくりの一環だなんて思って。今まで本当に目を向けなくて失礼でしたけれども、武雄市においてはそういうところをどんなふうに見ていらっしやるのかなというのもお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今我々が一番力を入れているのはオルレなんですね。オルレというと、濟州島の方言で我が家に帰る細い道というそうで、今韓国人で知らない人がいない方言なんですね。まあ、日本でいうと長崎のさるくに近いのかもしれませんが。これが韓国の流行語大賞にノミネートされるぐらいに、この濟州島の一方言が——ハイキング、トレッキングなんですね。だから、朝日新聞の記事を見ていたら韓流ハイキングという言い方もされていましたが、とにかくハイキングとトレッキングの間のもんです。すなわちこのオルレというのは、ハイキングの場合やったら、すごい短いかあるじゃないですか。これ大体10キロから20キロなんですよ。ただし、一般の方々が歩けるように、アップダウンももう100メートル以内なんで、割と平坦なところを歩いていくということと、もう1つポイントが、市街地を必ず歩くと。要するに、東川登の楠峯だけじゃなくてですね、何というんですかね、武雄温泉駅とか楼門とか、そういう市内の名所を歩いた上でそういったハイツの裏のところとか歩くのがオルレ

で、長くなりましたけれども、これ九州観光推進機構と国土交通省、九州運輸局が新たに導入したのがこの九州オルレ事業なんです。今第1弾として九州内に4コース、私どもの武雄、奥豊後、上天草、そして指宿が選定をされています。

武雄温泉駅をスタートして、ちょっと説明してもいいですかね。モニターをお願いしたいと思うんですが、（モニター使用）ちょっとごめんなさい、これ見にくくて恐縮なんですけれども、武雄温泉駅をスタートして、これ大体14キロ強あるんですけれども、いろんなところを通っていきます。よく白岩の前のところはみんな参りますけど、奥のところはなかなか行ったことがないと思うんですけど、非常にそのハイキングとして歩きやすい環境になっています。そして、永島のほうにおりてきて、貴明寺であったりとか、下の方に行きますけれども、ニューハートピアの手前の部分、池内湖をしてペンションピクニックの前をたどって、今度はこのAコース、ここがちょっと少し急峻になるんですけど、山岳遊歩道をこういうふうに戻っていくということになっていきます。14.5キロで時間にして大体4時間から5時間で行かれます。私も1回参りましたけれども、こういう目印が、（リボンを示す）これはオルレに共通してあるんですけど、こういう目印が掲げられていますので、これをひとつ道に迷わないようにね、我々としてもしていますし、そのコースを満喫した後は武雄温泉をぜひ楽しんでいただきたいという意味で、最後のゴールがこの楼門前になっています。

私は、長くなって恐縮なんですけれども、濟州島のオルレ、一部の議員がぐちゃぐちゃにしましたけれども、オルレに行ってまいりましたけれども、その濟州島のオルレで、もう世界遺産の中を歩いていくんですよ。こいは武雄は絶対かなわんばいと思うたです。そいぎ、濟州島のオルレの会長、すなわち全体のオルレの会長、私はお友達ですもんね。そいぎですな、がん言いんさったです。これリップサービスを含んでいるかどうかわかりませんが、我々濟州島のオルレに匹敵するのは武雄だけですと言んさったとですよ。これみんなの前で言いんさったとですよ。あ、これで行ってよかったなと思いましたが。

それで、どういうことかというぎ、確かに勇壮な自然では濟州島が上ですと、しかし、武雄には生活のぬくもりが感じられますと。例えば貴明寺で、僕、恩師ですけど、あの和尚さんは。あの和尚さんの、何というんですかね、立ち振る舞いとか、ああいうお堂に入って説法をすとかですよ、あとお地藏さんが観光資源なんですよ。これは失礼な言い方になるかもしれませんが、みんなお地藏さんの前で写真を撮らすわけですよ、記念撮影を。こい日本人の精神性では考えられんことですよ、お地藏さんの前で撮るとするのは。だけど、これがやっぱり我々は地元に住んどるぎなかなかわからんですけれども、これが観光資源になっている。それで、一番驚いたのは、武雄温泉駅の前で、多分これ新町だと思うんですけど、そこで大根ば干しよんさったとて、大根を。そいぎ韓国のおばちゃんたちが、私たちが干していますと言うて、アンニョンハシムニカとかと言うて、そこで会話の始まるわけですよ。これがやっぱり生活に触れ合うというのはここしかなかわけですな。

私は、濟州島の20キロのコースに行きました。行ったときに、お昼御飯、誰が用意しんさったと、婦人会です。地域連絡婦人会というところでした。（笑声）いや、これうそじゃなかですよ。婦人会、婦人会がですね、その漁港ですもんね、漁港の婦人会の皆さんたちがウニ井とウニうどんといって用意しとんさったわけです。それで我々が食べていったときに、そのとき婦人会のメンバーの海女さんのおんっさとですよ。その人が私の目の前で、急に歌い出したり踊り出したりしんさるわけです。これがそうなんだと、おもてなしなんだと、その踊りとか、あるいは歌というのは、そこに何百年と続いておるもんですもんね。これが僕は観光資源だと思ったんですよ。

ですので、もし武雄でオルレをする場合というのは、ちょっと今欠けているのは飲食の部分が欠けているんですけども、それは何か店をつくったりとかじゃなくて、今あるもので、だから、このコースになっているところはみんなキムチを漬けてもらおうかなと、それは冗談ですけども、（笑声）冗談ですけど、もう少しフレンドリーに話す。そこに行かれる方が、例えば少しでも韓国語で話せば、アンニョンハシムニカとか、オムニとか、カムサムニダとかとって話せば、それはそれで何かすごくまた交流が深まっていくんだろうなというのを思いますので、我々としてもぜひ濟州島のオルレを見習いながらしてまいりたいと思います。

ですので、ぜひ議会におかれても、宮本栄八議員さん以外はぜひ行ってほしいと思います。行って、（発言する者あり）いや、失礼じゃないですよ。あれだけ、あれですよ、武雄を宮本栄八議員さんのあのイエローペーパーで、本当に僕らはもう悪いイメージというのは立っているんですよ。ですので、もう行ってほしくないです。ですので、それ以外の良心良識ある議員さん行っていただいて、ぜひそれをね、こういうふうに改善したほうがいいということをごまアドバイスを賜ればありがたいと思います。宮本栄八議員さんにはこれをプレゼントしようと思います。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員（発言する者あり）

静かに。

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ただ、楽しいお話を聞けました。我が武雄市にもそういうふうなオルレのコース、すばらしいコースがたくさんあるということで、私たちも楽しみにして、今度雨が降っても私たち婦人会のほうも歩いてみようねと話しておりますので、歩いていってみたいと思います。それから、おもてなしについても、私たちにできるところは私たちが手伝いながらやっていきたいなと思っております。

それでは、きょうの私の質問はこれで終わります。楽しく明るい元気な武雄市になるようによろしくお願ひしたいと思います。

終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で11番上野議員の質問を終わります。